

災害に強いまちづくりを推進する

➤ 目指す姿

想定される災害への備えができており、市民の生命、身体及び財産が守られています。また、防災意識の高まりとともに、地域における支え合いの精神が根付いており、災害に対する不安や心配がなく、穏やかに日常生活を送っています。

➤ 現 状

近年、気候変動の影響による自然災害が激甚化・頻発化し、浸水被害も発生しています。自然災害に対する市民の防災・減災意識が高まっています。

➤ 課 題

自助・共助・公助の役割をそれぞれの立場で担い、防災・減災への対応力を高める必要があります。

大規模地震や集中豪雨などの発生時に、市民生活に欠かせないインフラ施設や住居等の被害を最小限に抑える必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

関係機関等と連携し、実践的な防災訓練や防災・減災意識の啓発に取り組みます。
 避難所に滞在する被災者の生活環境の確保に向けた取組を進めます。
 インフラ施設の耐震化や無電柱化を計画的に進めます。
 河川管理者等と連携し、自助・公助を組み合わせたハード・ソフト両面からの流域治水をはじめとする総合的な浸水対策を継続的に進めます。
 旧耐震基準による建物の耐震化を促進します。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性(目標値) (2027)	方向性(目標値) (2031)
防災訓練実施団体数	359 団体	検討中	
市が所管する避難所におけるマンホールトイレの設置箇所数	4 箇所		
浸水対策 に着手した地区数 【累計】	-		

：平塚市総合浸水対策（第3次実施計画）に基づく公助・自助を効果的に組み合わせた総合的な浸水対策

消防・救急体制を強化する

➤ 目指す姿

消防・救急体制が充実し、迅速かつ的確な対応への信頼感が高まっており、安心感に包まれながら、穏やかに日常生活を送っています。

➤ 現 状

高齢化の進行や単身世帯の増加などに伴い、救急搬送件数が増加しています。
高齢者や障がい者など、災害時に配慮が必要な方が増加しています。
新たな感染症のまん延や大規模災害の発生が懸念されます。

➤ 課 題

多種多様化する災害に、的確に対応できる消防力や地域防災力の強化が必要です。
誰もが迅速かつ適切に、救急医療を受けられる体制の維持が必要です。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

消防・救急業務の高度化に取り組むとともに、消防車両の更新や消防庁舎の再整備を計画的に進めます。

消防団への支援を継続するとともに、国・県・近隣自治体との連携協力体制を更に強化します。

救急搬送される患者を積極的に受け入れるとともに、新たな感染症のまん延に備え、院内体制の充実強化を図ります。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
火災出火件数	61件	↓	↓
救急活動における119番通報から病院収容までの平均所要時間	30分58秒	検討中	
消防団の訓練等実施回数	439回	↑	↑

日常生活の安心・安全を高める

➤ 目指す姿

犯罪、消費者被害、交通事故が減少しており、住民同士が気軽に挨拶を交わし合い、和やかな雰囲気の中で、安心して穏やかに日常生活を送っています。

➤ 現 状

市内の刑法犯認知件数は減少傾向にあるものの、依然として窃盗犯の割合が高く、特殊詐欺被害は件数、被害額ともに増加しています。
デジタル化の進展に伴い、若年層の消費者被害が増加するとともに、高齢者をターゲットとした悪質商法が発生しています。
高齢者や自転車利用者による交通事故が多数発生しています。

➤ 課 題

地域における犯罪や消費者被害を未然に防止する必要があります。
高齢者や自転車利用者の交通事故を抑制する必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

関係機関等と連携した防犯活動の実施や地域における防犯活動への支援を継続します。
 消費者知識の習得・向上に向けた取組を推進します。
 高齢者や自転車利用者を中心に、幅広い年齢を対象にした交通安全の啓発活動に取り組みます。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
刑法犯認知件数	1,227 件	↓	↓
消費生活出前講座等の参加者数	884 人	検討中	
交通事故死亡者数	4 人	↓	↓

まちづくりの拠点形成を推進する

➤ 目指す姿

平塚駅周辺地区は持続可能なまちづくりが進み、ツインシティ大神地区が神奈川県南のゲートに向け成長するとともに、西部地域は自然環境と調和した地域づくりが進み、それぞれが連携した拠点となっています。

➤ 現 状

平塚駅周辺地区は、建物や都市基盤の老朽化が進行しています。
平塚駅北口から西へ向かう歩行者交通量の減少などにより、にぎわいが低下しつつあります。
ツインシティ大神地区で、まちづくりが進んでいます。
西部地域は、貴重な自然が残っています。

➤ 課 題

平塚駅周辺地区で求められる機能やニーズに対応する必要があります。
ツインシティ大神地区で、交通の拠点としての価値などを高める必要があります。
西部地域がもつ地域資源を活かしながら地域の活性化を更に進める必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

平塚駅周辺地区に人が集まり居心地が良い、官民が連携したまちづくりを進めます。土地区画整理組合などとの連携による、環境に配慮した住宅街区の整備を進めます。(仮称)ツインシティ橋や道路2軸(「平塚愛甲石田軸」及び「伊勢原大神軸」)の整備要望と新幹線新駅の誘致活動に取り組みます。連節バスの導入を関係機関と調整し、交通ネットワークを強化します。地域住民や学術機関などとの連携による自然活動や農を活かした取組を推進するとともに、大規模施設の跡地利用は周辺環境と調和する地域の活性化に向けた構想づくりを進めます。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性(目標値) (2027)	方向性(目標値) (2031)
平塚駅周辺における共同建て替えの相談件数【累計】	—	検討中	(件)
ツインシティ大神地区土地区画整理事業の進捗率	75%		(%)

交通の利便性・快適性を高める

➤ 目指す姿

交通インフラが充実するとともに、どこへ行くにもスムーズで快適な移動が実現し、買い物をする人や友達と会う人など、それぞれが不便を感じることなく目的地までたどり着いています。

➤ 現 状

平塚駅を中心に放射状のバス路線が多く、東西方向の移動は、駅を経由しています。郊外部などでは、運行本数の少なさやバス停までの距離が遠いなど、公共交通が不便と感じている方の割合が高くなっています。平塚駅周辺や通勤通学の時間帯を中心に、交通集中による混雑が発生しています。

➤ 課 題

公共交通を利用しやすい環境を整える必要があります。
交通空白地域や交通不便地域を解消する必要があります。
交通の円滑化と住環境の向上に加え、歩行者の安全を確保する必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

バス停の待合環境やサイクル&バスライドの整備をします。
 地域の特性に合った様々な移動手段を確保します。
 幹線道路の交差点や歩道などを整備します。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性(目標値) (2027)	方向性(目標値) (2031)
自動運転バスの運行路線数 【累計】	-	検討中	
平塚駅 3km 圏の自転車ネットワーク整備率【累計】	49%		

快適な生活基盤の形成を推進する

➤ 目指す姿

安心・安全で暮らしやすくうるおいのある「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりのもと、良好なインフラが整い、生活に必要な機能が充実しているため、病院に行きたい人や買い物をする人たちが公共交通などを利用して、快適な生活を送ることができています。

➤ 現 状

平塚駅周辺地区等の一部地域に生活利便施設等が集積されています。また、市街地などで洪水や内水等の災害リスクがあります。

平塚駅周辺地区などでマンション建設が進む一方、市全域で空家等が増加傾向にあります。

道路や下水道などのインフラ施設は、老朽化が進行し、更新時期の到来が集中します。

平塚駅周辺や幹線道路を中心にバリアフリー化が進んでいます。

豊かな自然、歴史、暮らしなど様々な景観が各所に点在しています。

➤ 課 題

日常生活の利便性・快適性を高めるとともに、災害リスクを低減する必要があります。

市街地ストックを利活用する必要があります。

道路や下水道などのインフラ施設を計画的に管理する必要があります。

段差やわだちが生じている生活道路などで、快適に移動できる必要があります。

地域の特性に応じた景観の良さを、より高めていく必要があります。



重点戦略1
重点戦略2
重点戦略3
重点戦略4
分野1
分野2
分野3
分野4
分野5

取組方針

生活利便性や災害リスク等の地域特性を踏まえ、居住や都市機能の誘導を促進し、生活拠点の形成を進めるとともに、交通ネットワークを充実します。
 地域や関係団体と協働し、空家等の適正管理や利活用を進めます。
 インフラ施設の予防保全型の長寿命化を進めます。
 子育て世代や障がい者などの歩行者が、安全に通行できる道路や空間を整備します。
 多様な景観特性を活かした、魅力的なまちなみの形成を進めます。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
空家解消率	46.9%	↗	↗
橋りょうの長寿命化数	集計中	検討中	
公共下水道管路（合流区域）の長寿命化延長	集計中		

：市から対応策を周知啓発した空家等のうち、居住、適正管理、解体がされて空家等が解消した割合。

花とみどりにあふれる環境を充実する

➤ 目指す姿

咲き誇る花や豊かな緑に囲まれ、爽やかな風吹く公園や水辺で、おしゃべりしながら散歩する人や、元気に遊ぶ子どもたちなどが、思い思いの時間を過ごしています。

➤ 現 状

丘陵地や海などの豊かな自然環境に、多くの市民が魅力を感じています。

公園施設の老朽化等により、快適性が低下している公園があります。

一定のルールの下で、市民が安全に公園を利用しています。

緑化推進や公園管理に携わる市民団体は、会員の高齢化や人員が不足している傾向にあります。

➤ 課 題

都市空間における公園・緑地の緑を守り、質を高める必要があります。

市民が豊かな自然環境の中で、うるおいと安らぎの場を享受できるようにする必要があります。

公園施設の適切な維持管理や、市民の満足度を高める必要があります。

市民主体の緑化活動や公園の手入れ等を進める必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

緑化意識の高揚や啓発に取り組みます。

周辺の地域資源を活かすとともに、誰もが安心・安全に利用できる公園や緑地の整備・管理を計画的に進めます。

にぎわいがあり、交流の場となる公園利用に取り組みます。

緑化推進や公園管理に携わる市民団体同士の連携や行政との協働を強化し、より魅力的な活動を行います。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
バリアフリー化を図った公園数【累計】	29 箇所	検討中	
花の名所の箇所数【累計】	12 箇所		

産業の活性化を促進する

➤ 目指す姿

社会の変化に適応できる経営の敏しょう性が備わっており、企業の競争力が向上しているとともに、持続可能な産業が構築されています。また、新しい企業が創業し、老舗企業も時代に合わせて事業を変革しています。

➤ 現 状

世界的にエネルギーや物価が高騰しています。

国は「人」「科学技術・イノベーション」「スタートアップ」「デジタル化」「脱炭素化」への投資を強化しています。

社会が急激に変化し、求められる産業や組織形態、働き方も大きく変化することが想定されます。

社会経済環境の変化により、経営課題が多様化しています。

大きな成長を継続できる企業

➤ 課 題

デジタル化、脱炭素化等を進める新たな知的対流をおこす必要があります。

特性、特色を活かした産業の付加価値を高める必要があります。

創業や中小企業の経営課題の解決を支援する必要があります。

共同研究・協働・人材育成・スタートアップ等



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

社会課題の解決に向けた研究や事業に対して積極的に協力することで「知」の集積を進め、人材育成やさらなる知的対流につなげます。

産業間連携を推進し、新商品の開発や新事業の創出を促進します。

関係支援団体や金融機関等と連携して、変化する社会経済環境下における課題解決を支援します。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
知的対流を通じた交流人数【累計】	446人	検討中	検討中
産業間連携ネットワークによる新商品開発・新事業創出件数【累計】	26件		
中小企業の相談受付件数【累計】	2,831件		

：関係支援機関を含めた相談受付件数

農業・漁業を振興する

➤ 目指す姿

農漁業者の特性を活かした多種多様な農水産物の生産等が行われるとともに、デジタル技術を活用した新たな機器を導入するなど、事業の拡大が図られています。また、都市近郊の立地が生かされ、多くの市民が農水産業の大切さを肌で感じており、農漁業者は地域への愛着と誇りをもって働いています。

➤ 現 状

県内第1位の生産量を誇る米をはじめ、特産品であるバラ・きゅうり・いちごなど様々な農畜産業が営まれています。

国は「食料・農業・農村基本計画」において、「農業の持続的な発展に関する施策」として担い手の育成・確保や農地集積・集約化、農業生産等のイノベーションの促進などを挙げています。

農業者の高齢化や離農に伴い、農業経営体数や経営耕地面積が減少しています。

市場の出荷に適さない鮮魚が水揚げされています。

食料の安定供給、多面的機能の発揮、農業の持続的発展、農村の振興の実現に向けた施策をまとめた計画

➤ 課 題

持続可能な農水産業を推進する必要があります。

農水産業の経営の効率化と生産性を高める必要があります。

農地利用の最適化を推進する必要があります。

都市型の農水産業への理解を深める必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

農水産業の生産基盤整備を計画的に実施するとともに、担い手の人材を確保・育成します。
 スマート農水産業の導入を支援します。
 農地の集約を推進するとともに、関係機関と連携して経営承継や経営基盤の強化を支援します。
 農水産物の販路拡大や付加価値の向上等を促進し、地産地消に取り組みます。

ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農水産業

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
ワンストップ窓口の就農相談件数 【累計】	28件	検討中	
スマート農業の導入支援件数 【累計】	10件		
農地利用集積面積	153ha	↗ (ha)	↗ (ha)
低利用魚活用数量		↗ (kg)	↗ (kg)

工業を振興する

➤ 目指す姿

高度な技術力と製造ノウハウを備えた企業が立地し、地域経済の発展に欠かせない存在になっています。また、働く人たちは、確かな技術と地域における存在感を誇りに、更なる技術開発や生産性の向上に取り組んでいます。

➤ 現 状

長年製造を支えていた工場施設等が更新の時期を迎えています。
県内トップクラスの高い製造品出荷額が維持されています。
デジタル技術の更なる活用による生産性向上に意欲的な企業が多くなっています。

➤ 課 題

生産性、技術力を高める必要があります。
限られた工業用地の中でさらなる収益性を確保する必要があります。
企業の誘致、事業拡大の促進と市外流出を防ぐ必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

新たな企業の立地や既存企業の事業拡大、生産性向上のための設備投資等を支援します。
競争力を高めるため、産学 の共同研究による新製品や新技術の開発を支援します。

産業界と大学などの学術機関

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
企業立地支援件数【累計】	39 件	検討中	
産学共同研究関連支援件数【累計】	8 件		

商業・観光を振興する

➤ 目指す姿

多種多様な店舗では、消費者ニーズを満たす商品がそろい、地域コミュニティを支える商店街では、来街者が楽しそうに会話をしながら買い物かできています。

また、七夕まつりをはじめとする平塚ならではの観光資源が親しまれ、愛着を持って地元を楽しむ人でにぎわっており、まちに笑顔と活気があふれています。

➤ 現 状

インターネットを利用した商品購入の拡大により、消費行動が変化しています。

平塚駅周辺地区では、定住人口の増加により、商店街に求められる役割が変化しつつあります。

平塚を代表するイベントの七夕まつりのほか、豊かな自然環境や総合公園、ビーチパークなど多様な観光資源があります。

競輪場では、開催、非開催を問わず各種イベント等に施設が利活用されています。

➤ 課 題

消費行動の変化に合わせた店舗経営や、魅力ある商店街づくりを促進する必要があります。

平塚を代表する七夕まつりをはじめ、観光資源の魅力を伝えるイベントを、今後も継続できるようにする必要があります。

多様な観光資源を効果的に活用する必要があります。

スポーツや娯楽としての競輪の魅力をより高めるとともに、競輪場が市民に広く親しまれることが必要です。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

個店の専門性を活かした取組を支援し、デジタル化やマーケティング等を通して経営力の強化を図ります。

平塚駅周辺地区の活性化を担う団体や商店街団体等の活動を支援します。

七夕まつり等のイベントにおける安全対策や近隣住民の理解促進のほか、担い手の確保の支援に取り組みます。

地域資源を活かした観光プログラムを開発するとともに、情報発信に取り組みます。

競輪場の民間などによるイベント実施での利活用を推進するとともに、イベント実施に効果的な施設を整備します。

商品やサービスが売れる仕組みをつくること

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
		検討中	
魅力化実施店舗数【累計】	70 店舗	検討中	
入込観光客数	635 万人		

雇用の確保、多様な働き方を促進する

➤ 目指す姿

働きたいと思う仕事があり、フレックスタイム制度¹やリモートワーク²、時短勤務などの働き方が一般的になっています。また、男性、女性ともに、それぞれが希望するキャリアを積み、向上心をもって仕事に取り組んでいます。

- 1 決められた総労働時間の範囲内で、始業や終業の時間を労働者が自由に決められる制度
- 2 オフィス以外の場所で働くこと

➤ 現 状

高い昼夜間人口比率を保っています。
テレワーク など場所にとらわれない働き方が広がっています。
生産年齢人口の減少が続いています。
人手不足の業種と求職者が求める仕事に不一致があります。

ICTを活用して、オフィス以外の場所で柔軟に働くこと

➤ 課 題

企業の人手不足を解消する必要があります。
働きやすい職場づくりが必要です。
勤労者の生活の安定を図る必要があります。



取組方針

ハローワーク等の就労支援機関と連携し、企業と求職者を結ぶ支援をします。
 事業主や勤労者の労働問題などに対する知識・理解を深めます。
 勤労者に対して融資制度等を通じた支援を行います。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
正規雇用促進補助件数【累計】	229 件	検討中	
合同就職面接会等就職面接会参加者数【累計】	396 人		

重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

環境にやさしいまちづくりを推進する

➤ 目指す姿

緑豊かな街並みが広がり、自転車や公共交通を利用する光景が当たり前となっています。また、再生可能エネルギーの導入をはじめ、環境負荷*の少ない生活様式が浸透しており、持続可能な地球の未来へ思いを馳せながら、自分たちができることを積極的に行動に移しています。

➤ 現 状

2013年度の民生部門の二酸化炭素排出量推計値約840千トンCO₂に対し、最新の推計値（2020年度）は、約630千トンCO₂（削減率25%）となっています。

大気環境は、光化学オキシダント*を除き環境基準を達成できています。また、市内河川、海域の水質は、ほぼ全ての地点で環境基準を達成できています。

豊かな自然環境に恵まれ、多くの市民がまちに魅力を感じている一方で、日常生活の中で自然と触れ合う機会が減少しています。

➤ 課 題

市民や事業者に対して、脱炭素社会の実現に向けた意識付けや行動変容を促進するとともに、市が率先して脱炭素化に取り組む必要があります。

大気、水などの生活環境を良好な状態に保つ必要があります。

豊かな自然環境を将来につなげる必要があります。

注釈「*」今後、用語解説で説明します。



取組方針

ゼロカーボンシティの実現に向けて、民生部門の二酸化炭素排出量を 2013 年度比で 50%以上削減します。

大気、水質に関する環境測定や監視活動を継続的に実施します。

市民や関係機関等との協働による環境保全活動に取り組みます。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
二酸化炭素総排出量	2,718 千トンCO ₂	↓	↓
太陽光発電導入量【累計】	37.8MW	検討中	
里山保全活動の参加者数	274 人		

重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

循環型社会の形成を推進する

➤ 目指す姿

一人一人が、自分たちが暮らす地球環境の未来へ思いを馳せながら、家庭や事業活動における、ごみの減量、分別及び資源再生に積極的に取り組んでおり、環境負荷の少ない、持続可能な循環型社会*への移行が進んでいます。

➤ 現 状

一般廃棄物の排出量は減少傾向にありますが、資源化率は横ばいとなっています。高齢化の進行等により、ごみ出しが困難な市民が増加していることから、一部の地域で可燃ごみの戸別収集*を実施しています。環境事業センターにおいて、高効率な廃棄物発電や余熱の有効利用に取り組んでいます。

➤ 課 題

ごみの減量と資源化率の向上を図る必要があります。
食品ロス削減に取り組む市民や事業者を増やす必要があります。
ごみ出しに係る市民の負担を軽減する必要があります。
ごみ処理において生じる再生可能エネルギーの有効利用を更に推進する必要があります。

注釈「*」今後、用語解説で説明します。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

ごみの排出抑制や分別の徹底、資源再生に向けた市民や事業者の取組を促進します。
 神奈川県と連携し、食品ロス削減に対する市民や事業者の理解を深めます。
 可燃ごみの戸別収集を市内全域に拡大するとともに、効率的なごみ収集体制を構築します。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
1人1日当たりのごみ排出量	818g	↓	↓
ごみの資源化率	25.1%	↑	↑

